

現代日本語 用例全集

1 アキ

見坊豪紀



Illustration

筑摩書房

現代日語
用例全集

アキ

見坊豪紀

江苏工业学院图书馆
藏书章

見坊豪紀（けんぼう・ひでとし）

一九一四年、東京に生まれる。東京
大学文学部卒業。旧制東京高校教
授、岩手大学教授、国立国語研究所
第三研究部長を歴任、現在『三省堂
国語辞典』編集主幹。

著書 『ことばの海をゆく』（朝日選
書）、『辞書をつくる』（玉川選書）、
『ことば』 『さまざまな出会い』（三省
堂）他。

現代日本語用例全集 第1巻

著者 見坊豪紀

☆

発行者 関根栄郷

発行所 株式会社筑摩書房

東京都千代田区神田小川町二一八
電話 東京二九一―七六五二（営業）
東京二九四―六七一一（編集）
郵便番号 一〇一―九九一
振替 東京六―四二二三

印刷 Ⅱ 暁印刷／製本 Ⅱ 積信堂

一九八七年十一月二十日初版第一刷発行

©見坊豪紀 一九八七

ISBN 4-480-15501-5 C0381

乱丁、落丁本の場合は、ご面倒ですが、小社読者係宛に
ご送付下さい。送料小社負担にてお取替えいたします。

序

この本は、雑誌「言語生活」に連載中の「現代日本語用例大全集」（昭和五九年二月号）を、一部加筆の上、一本にまとめたものである。

国語辞書にかかわったのが昭和一四年のことだから、ほとんど半世紀になろうとしている。その間、『明解国語辞典』第一版（昭和一八年）、同改訂版（昭和二七年）、『三省堂国語辞典』第一版（昭和三五年）、同第二版（昭和四九年）、同第三版（昭和五七年）を、編集主幹として手がけながら、多数の「辞書にないことば」を導入してきた。

ここで「辞書にないことば」とは、

- (1) 世の中に行われていて、
 - (2) 辞書にのっていないと思われるのに、
 - (3) まだのっていないことば。
- のことである。

こうしたことばを辞書にのせるためには、新聞・雑誌・単行本・放送・談話など、さまざまな資料から、目的にかなうことばを、文脈つきで採集しなければならない。そのようにして集めて辞書にのせたことばは、かぞえてみると、延べ三万六千語に上るようであり、これは小型辞書の見出し

語数の半分に相当する。(辞書ごとの数など、くわしいことは、「言語生活」昭和六二年九月号三〇ページ、柴田武「辞書から消えた語、消える語」参照)

ここに発表する用例集は、昭和三十六年以降採集を続けている同時代語の記録であるが、もとをたせば、『三省堂国語辞典』第三版に新しく収録した項目(意味の追加だけの項目も含む)を先行辞書十種と対照した結果表に始まる。

すべての辞書にあれば一〇点、逆に、すべての辞書になければ〇点と、項目ごとに得点を与え、〇点から四点までの項目、つまり、先行辞書の過半数以上にならないことを中心にまとめたものである。とは言っても、紙数の関係もあり、集めた用例のすべてを示すわけにはいかない。(『三省堂国語』第三版以後に刊行された辞書も多いので得点数そのものに変動が起きている項目もあるが、大きな変動は起こっていないと思う)

あくまでも、昭和五〇年代を中心とする同時代語の記録として見ていただきたいのだが、とりあえずふれておきたいことは、ここに収めたことばは、「啞」から「んんん」まですべて、家庭生活と社会生活の両方にまたがる、広い意味での日常語である、ということである。(二三六ページ参照)

しかしながら、なにぶんにも、個人の狭い見聞の範囲からの採集であるので、「これが最初の用例である」とか、「これ以外にはない」とか言うつもりは毛頭ない。逆に、「ここに出した用例以外に心当たりがない」わけでもないものもあるわけだが、今は、すべて、実際に集め得た用例にしほって示すことにした。

なお、「用例」の中には、連想で思い出したもの、ひとから教わったものなど、直接採集にもとづかないものも若干まじっていることをおことわりしておく。

この用例集が同時代語の記録であると同時に、現代語の実態に興味を持つ人びとに役立つことを願っている。

昭和六二年九月

見坊豪紀

凡例

各項目の体裁は次のとおりである。

1 見出し

- (1) ゴシック体で示す。
- (2) 表記は漢字かなまじり。(原文のままではない)
- (3) 字体は常用漢字による。表外漢字の場合、かな書きにすることがある。
- (4) 意味の追加の場合は、語頭に*印を付け、「」の中に追加した意味を略記する。
- (5) 見出しに…がある場合は、…の上の形で並べる。
- (6) 見出しにかたかなの振りがながある場合は、かたかなの形を見出しと見なす。

2 評価

- (1) 見出しの下に、他辞書十種と比較対照した結果を点数の形で示す。
- (2) 点数は、大型(二種)、中型(二種)、小型(六種)の規模別に示す。
- (3) たとえば、102…3とあれば、その語または語義(*印)は、大型辞書一種にあり、中型辞書にあり、小型辞書二種にあり、計十種の辞書中三種にあり、の意味である。
- (4) 対照する辞書はすべて一冊本とする。

3 用例

- (1) 項目ごとに用例番号を付ける。
- (2) 用例番号の次に年代を示す。(ゴシック体)

年代は西暦で示す。ただし、一九〇〇年代は下二けたで示す。

(3)年代の次に作者と題目を示す。

(4)引用文中、見出しに相当する部分をゴシック体で示す。

(5)用例は、長くないよう、適宜「(略)」の記号を入れる。

文頭の「(略)」は、一文の頭の部分を略したときに使う。

(6)傍点などは、ことわらない限り原文のままである。

4 出典

(1)用例の次に出典(出所、日付、ページ、コラム名、回数など)を、かっこに包んで示す。

(2)用例に作者名がない場合、作者名のあるべきところへ出所名を示す。この場合、出典は、日付から始まる。

5 注記

(1)必要に応じ、「」の中に注を入れる。

(2)参考の形で、追加情報を示すことがある。

対照のために使った辞書(82年1月現在)

大型辞書

『日本国語大辞典』(25万語) 小学館81年12月刊

『広辞苑』第二版補訂版(20万語) 岩波書店76年1月刊

中型辞書

『改訂新潮国語辞典』(14万語) 新潮社74年3月刊

『学研国語大辞典』(10万語) 学研78年4月刊

小型辞書

『新選国語辞典』〔常用〕新版（7.8万語）〔前書きの“7.4万語”は初版当時の数字であるよし〕小学館82年1月刊

『旺文社国語辞典』新版（7.6万語）旺文社80年10月刊

『角川新国語辞典』（7.5万語）角川書店81年1月刊

『講談社国語辞典』改訂増補版（7.5万語）講談社72年9月刊

『新明解国語辞典』第三版（7.4万語）三省堂81年2月刊

『岩波国語辞典』第三版（5.9万語）岩波書店79年12月刊

参考 『三省堂国語辞典』第三版（6.5万語）三省堂82年2月刊〔序文に「新項目は四千。」と書いたが、

少なすぎた。六千以上と書くべきだった〕

第1卷 目次

序

凡例

あの部…… 1

おの部…… 105

いの部…… 47

かの部…… 137

うの部…… 75

きの部…… 191

えの部…… 91

現代語の用例採集とその整理…… 234

あ

啞

①66年 伊藤昇「百年の切抜帳」 ます盲・ろう・あ から／出発した特殊教育〔見出し〕

〔朝日新聞〕12月12日朝刊7〕

110…2

アーガイル [Argyle]

000…0

①73年 「non・no」〔月2〕 アーガイル 菱形の格子で、スコットランドの州名アーガイルにちなんだ名称。主に編み込み模様として使われる（略）伝統的なチェックです。

（9月5日号53「この秋の流行がひと目でわかるファッション用語事典」）（全5例）

参考 初見例は、「読売新聞」64年10月28日朝刊7「おしゃれの楽しみ」29回。別に「アーガイル・セーター」「アーガイル・ソックス」〔non・no〕〔月2〕80年12月20日号98・Ⅷ）もある。

アーサ [ASA]〔写真〕

100…1

①75年 「NHK総合テレビ」 アーサー百をお使いください。（3月9日9時35分「受信相談」）

参考 「アーサ」の用例と見なす。今、DIN。

*ああら（感）〔女〕

211…4

① 66年 サトウサンペイ「チェック野郎」〔漫画〕 アーラシバラク／お元気？

〔漫画読本〕 6月号25

② 67年 「言語生活」 ああらああら、そうですか。

（9月号70「録音器」欄）（全3例）

愛…の結晶

000…0

① 78年 進藤咲子氏から。

（10月13日）

愛…の巢

001…1

① 78年 進藤咲子氏から。

（10月13日）

愛…のむち

000…0

① 81年 「読売新聞」 「体力測定中に生徒をなぐった事件の」判決は、教師の体罰を認めたもの

ではないが、校内暴力が問題になっている折、教師の「愛のムチ」のあり方に問題を投げかけ

そうだ。 （4月1日夕刊15「愛のムチ」許される 東京高裁）（全3例）

参考 初見例は次のとおり。

② 65年 「週刊朝日」 （略）各大学ワンゲル部のシゴキぶりはどうか。「愛のムチ」の美名のもとに

「暴力シゴキ」が許されてはなるまい。 （6月11日号24「シゴキノ」）

I 〔学生〕

000…0

① 78年 神谷甲子郎 （略）「言語生活」〔77年〕11月号（314号）の「私家版・ことばのくずか

ご」に、（略）「Aはキッス、Bはペッティング、……Dは妊娠中絶。」とありましたが（略）、

ちょっと違うようです。熱海警察・防犯少年課長から聞いたところでは、Aーキッス・Bーべ

ッティング・C—セックスはその通りですが、Dはニンシンで、その中絶は、どういうワケか飛んでIと表現することでした。(略) Iに要する費用は五万、クラスメートのカンパで賄うとか。

〔言語生活〕1月号95〜96「読者と編集部」欄

②78年 中園康生 3月号当欄の清水敏子氏の情報によれば、この「I」は「中絶をするところから生きたお腹(D)もベチャンコ(I)になる」ところから生まれたらしい。(略)しかし、「アメリカカ俗語辞典」〔堀内克明訳・編 研究社出版75年9月30日刊〕には、 **Interruption** (I+する) interruption」とあって(243ページ(略)) (略) 語源として、英語の interruption (中絶、墮胎)の頭文字をとったとする説をあげている。(略)「E」が中絶とする説もある(5月号森俊晋氏)(略) 〔言語生活〕6月号95〜96「読者と編集部」欄(全6例)

参考 初見例は「ブレイボーイ」75年5月6日号103「ボルノ用語辞典」。

③82年 「平凡パンチ」 I 中絶(略)あくまでも文字の形の上からでき上がった言葉

(82年12月6日号70、72「女子中学生御用達 現代語」〔92ページAも〕

*愛妻弁当

①74年 「サンケイ」 十一月十七日付「おとこT・P・O」をお読みになったでしょうか。作家の阿部牧郎さんの「愛妻弁当論」。反響がすごいです。

(12月1日朝刊11「男を変えた」愛妻弁当」(全3例)

参考 初見例は、「日本経済新聞」67年5月8日朝刊11「オフィス論壇」欄 高田泰行。

愛想…笑い

① 61年 多岐川恭「あつい部屋」 「そうなんですの。どうぞよろしく」とヨネは愛想笑いを
して、いくらかおどけ気味に頭を下げた。
(「別冊小説新潮」〔季刊〕4月号125)

② 66年 山崎豊子「仮装集団」 「日頃は太へんご鼻^{ひいき}尻^しに預っております、(略)」営業マンらし
く顔一杯に愛想笑いをうかべて挨拶した。
(「週刊朝日」10月21日号86 55回)(全7例)

愛聴

000...0

① 78年 「毎日新聞」 SP時代のレコードは、実に高価な買いものだった。(略) それだけに、
買う前の選択は慎重をきわめ、いざ手に入ると心ゆくまで愛聴したものだ。

(11月4日朝刊1「余録」欄)

② 75年 中村鋭一『鋭ちゃんのバラード』 親愛なる愛聴者諸君。
(21 講談社11月16日刊)

③ 78年 「日本経済新聞」 私の愛聴盤
(11月25日朝刊26)「コラム名」(全10例)

参考 各語形の初見例。

愛聴

(「東京新聞」71年5月21日夕刊10「反響」欄)

「愛聴下さい」

(FM東京71年3月29日13時58分)

愛聴者

(「週刊FM」71年3月22日号51「次週のききもの」欄)

愛聴盤

(「週刊朝日」66年4月8日号99「LPガイド」欄)

アイデンティティ [Identity=同一性]

102...3

① 65年 小田実「祈りと剣」第三章 (略) 木下考が週刊誌に書いていた。「民族のアイデンテ
ィティを失なった都市——それが今日の東京のあからさまなる相貌に他ならない(略)」

〔日本〕6月号316〔初見例〕

②67年 佐々木基一 傍観者的な兄と、行動的な弟との葛藤——二人は同じように、喪われた自分自身のアイデンティティをとりもどすことを念願しているのだが——、(略)

〔朝日ジャーナル〕10月15日号75 大江健三郎著『万延元年のフットボール』評

③74年 「週刊朝日」 日本の社会は、いままでよかれ悪しかれ、アイデンティティ(自己確認)があった。それがなくなつて非常に不安になつてしまつた。

(7月26日号106 座談会「出版界'74上半期の話題」④F氏の発言)

④77年 木村治美『黄昏のロンドンから』 アメリカの場合は、純粹のアメリカ人は誰かと探し求めても、そんなものは存在しないのは当然です。(略)それで各人のアイデンティティを示すのに、ユダヤ系アメリカ人とか、日系アメリカ人とか、(略)いった言い方をするのでしよう。

(PHP研究所刊「文藝春秋」5月号37〔大宅壮一賞〕)

⑤77年 田中光二「灼熱の水平線」 人間は自己同一性を保つことにひどくこだわる動物である。すなわち、常に自分が自分であることを証明せずにはいられない性質を持っている。

〔問題小説〕8月号40 1回)

⑥79年 「女性セブン」 アイデンティティ “自己同一性”と訳されている。つまり「自分という人間はなにか」と問いかげ、いまの自分や、いままでの自分が自分ではないと考えたりすることを、「アイデンティティの危機」といったりする。

(4月5日号25「当世巷間流行女人用語字書」(全41例))

アイデンティティ

000...0

① 69年 (紀) ちなみに、(略) 昔の紀行文学の作者たちは、現実からなにかを発見すべく地方におもむいたのではなく、古典とのアイデンティティを確認することを主要な目的として旅したのである。
〔日本経済新聞〕7月27日朝刊15「日本のこころ」欄

② 70年 柳川啓一「本居宣長」 アイデンティティとは、かりに存在証明とか自己確認とかいう訳語があてはめられるが、松本〔滋〕氏によれば、『私は誰であるか』という疑問に対する解答であり、自分の内における連続と、自分の外との同一を確かめることである。』(略) 思春期において、自己の連続感と他者との同一感を失うことが、「アイデンティティの危機」であり、(略)
〔学燈〕10月号78

③ 77年 野元菊雄 ヨーロッパみたい、ちょっと国境を越せば別の言語を使う人がいて、そのことの抗争があつて、(略) 民族のアイデンティティ (同一性・帰属意識) ということと、ことばというものが密接に結びついているところとは少し様子が違って、日本人は日本語について少しのんきな傾向があるんじゃないだろうかという気がする (略)

④ 77年 松本道弘「なつとう」 英語は国を滅ぼす」 アイデンティティとは、平たくいえば、自分と他人はちがうという欧米ではごくあたりまえの概念である。
〔言語生活〕5月号2 座談会「日本語と日本人」

⑤ 78年 草柳大蔵「実録満鉄調査部」 〔満鉄の〕首脳部の方も、選任される事情がきわめて政
〔月刊エコノミスト〕8月号48

治的なので、社員との間にアイデンティティ（一体感）をつくる^{いとま}違がない。

〔週刊朝日〕7月14日号65 28回

⑥79年 「日本経済新聞」 たとえば「アイデンティティ」は社会心理学者、社会学者などの専門用語だったのに、近ごろは普通のサラリーマンも口にする。

（12月14日夕刊2「今月も「激る」新造語」（全26例）

参考1 「アイデンティティ（一）」のいくつかは、セルフアイデンティティ（一）の上位概念か？

⑦70年 岡田靖雄 （略）日本人として、男あるいは女として、職業人としてなどなどの各アイデンティティを統合し、「自分はつねに自分である」という連続性と「自分は他人にならない」という不変性をもった社会的自己意識の一貫性が自我アイデンティティである。

〔朝日ジャーナル〕1月11日号82〜83 『主体性——青年と危機』（E・H・エリクソン著 岩瀬庸理訳）

評）

⑧78年 中村敬 言語が違えば、思考法も異なる——とすれば、外国語教育はへ^{セルフアイデンティ}主体性^{ティ}を失う危険を伴った営為となる。

〔ことばと教育〕〔三省堂〕3月号13 金石範著『ことばの呪縛』評）

参考2 アイデンティティ（一）の訳語

一体性 内なる世界 帰属意識 固有性 自我同一性 自己確認2 自己証明4 自己存在証明 自己
 同一 自己同一性3 自同性 社会的自己 主体性2 正体2 存在確認 存在証明4 同一性2 独
 自性〔数字は例数。無数字は1例〕